2019台風15号被害(千葉県)

TMAT 災害医療活動報告

令和元年 9 月 20 日　 8：30

富里市療養型病院支援

9 月 9 日

5：00 頃　台風 15 号(ファクサイ)が千葉県千葉市付近に上陸。その影響により関東地方では広域に渡って一部浸水被害や家屋等の破損被害が発生。千葉県で特に被害が甚大であり、約 64 万軒が停電。それに伴い断水被害も相次いで起こった。倒木や約 2000 本の電柱が折れた影響により電力復旧には時間を要する模様。

9 月 10 日

12：00 頃　徳洲会グループ関連施設の状況は、停電被害は一時的であり現時点では復旧している。しかし、富里市にある中沢病院(療養型)で約 280 名が入院しており、停電の影響で病院機能の維持が困難な状況となっている模様。行政等に支援要請をしているものの、今後の見通しが立っていない状況であるとのことであった。TMAT 事務局に中沢病院より患者搬送支援の要請が入った為、徳洲会グループ及び TMAT 幹部の協議の結果本日より支援を開始することを決定する。

14：00 頃　千葉県内の徳洲会グループ病院である、成田富里徳洲会病院、鎌ケ谷総合病院、千葉徳洲会病院、四街道徳洲会病院に対して搬送及び受入れ支援協力を要請。

16：00 頃　TMAT 事務局野口が中沢病院に入り状況確認。中沢病院 3 役と面談し、患者の状態から長時間空調無しの環境では耐えられないこと、停電の長期化の可能性があること、停電が解消されても施設の老朽化ですぐに復旧できる保証はないことなどから、入院患者を近隣施設へ避難させたい旨の方針を確認。すでに、個別に受入れ交渉をした医療機関や介護施設へは搬送を開始させている状態。

19：00 頃　千葉徳洲会病院・鎌ケ谷総合病院・四街道徳洲会病院・成田富里徳洲会病院及び AMAT(全日本病院医療支援班)の協力のもと、中沢病院から当該病院を含む近隣医療機関へ約 41 名の搬送を行った。また、

明日は千葉西総合病院、千葉徳洲会病院、鎌ケ谷総合病院、四街道徳洲会病院、館山病院、成田富里徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、茅ヶ崎徳洲会病院の計 9 病院の緊急車両協力のもと、成田富里徳洲会病院への患者搬送を行うことを決定。

※行政の許可を得て、成田富里徳洲会病院の空床フロアに患者を避難させる計画。約 50 名の搬送を予定。

※なお、千葉市や八街市等でも機能維持困難の病院が多く発生しており、同地域に近い四街道徳洲会病院が多くの救急及び入院患者の受入れ対応をしている。

9 月 11 日

10：30 頃　千葉西総合病院、千葉徳洲会病院、鎌ケ谷総合病院、武蔵野徳洲会病院、館山病院、成田富里徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、茅ヶ崎徳洲会病院の救急車 9 台を利用して成田富里徳洲会病院の空床フロア（老健施設として準備中のフロア）へ予定の 50 名の患者を搬送。

※四街道車両故障のため、武蔵野車両に変更

16：30 頃　予定していたすべての患者の搬送が終了。移動先では中沢病院のスタッフが同行し、ケアに当たっている。

同日朝より千葉県 DMAT 及び AMAT にも広域病院転送業務を担当していただき、TMAT の搬送と合わせて 9 月 10 日に 41 名（内 3 名千葉徳洲会病院、5 名鎌ケ谷総合病院、11 名成田富里徳洲会病院）、9 月 11 日に 69 名（内 50 名は成田富里徳洲会）の計 110 名の患者搬送を行った。翌日は、DMAT が中心に残りの患者を搬送することを決定。

9 月 12 日

3 : 00 頃　東京電力の発電車両が中沢病院に到着。現在同院に残っている患者療養に十分な電力供給が可能となったため、**本日以降の搬送は実施しないことを決定。**

9 月 13 日

21：00 頃　中沢病院の電気が完全復旧。

9 月 17 日

8：30 頃　成田富里徳洲会病院転送した 50 名に関して、中沢病院へ戻り搬送開始。

17 : 00 頃　すべての患者搬送無事終了。なお、9 月 10 日搬送した患者は状況をみて戻りの搬送を実施することとなった。

中沢病院幹部と DMAT、AMAT、TMAT による搬送計画会議

中沢病院停電時の様子

中沢病院から救急車で患者搬送

患者を受け入れる成田富里徳洲会病院

人海戦術で安全に患者搬送を実施

多くの病院から搬送支援のため救急車が集結

南房総エリア（館山市）支援

9 月 14 日

台風 15 号被害が甚大な千葉県に対して、富里市の療養型病院（中沢病院）の患者搬送支援に続き、南房総エリアの支援を開始した。南房総エリアは館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町が電気復旧に 2 週間を要する（東電発表）状態の中で、TMAT と支援母体である徳洲会グループの館山病院のライフライン障害は無いものの、多くの職員が被災をしている状況。
以上を踏まえ、TMAT として下記 2 名を館山市へ派遣を決定。

柳澤　修平　看護師　（四街道徳洲会病院所属）
野口　幸洋　事務　　（TMAT 事務局/一般社団法人徳洲会所属）　計 2 名

上記 2 名、館山病院 3 役と面談。昨晩の地域対策会議で出来るだけ館山病院としても患者を受け入れる方向性を示したことを確認した。その後、同地域の保健医療調整本部が設置されている安房地域医療センターにて情報収集を実施、南房総地域の沿岸部を中心に停電や断水が継続しており、同院は通常の 2～3 倍の救急を受け入れているとのこと。入院も満床状態で、廊下やデイルームにベッドをいれて、患者受け入れをしている状況であり、症状が落ち着いた患者等の後方受入れに難航しているとのことであった。
それを受けて、4 名の患者を館山病院へ転院させることとなった。TMAT2 名と館山病院事務長とで、館山病院救急車両を利用し患者搬送を実施。
また、被災の影響で出勤できない職員と休めず疲弊した職員の支援の為、徳洲会グループ本部に職員の応援を要請。同日中に 7 名の看護師が応援に入ることが決定した。

16：00 頃　南房総地域の災害対策会議(保険医療調整会議)が行われた。そこで竹内院長(館山病院 院長)より、「TMAT、徳洲会グループと連携し、館山病院で最大限転院患者を受け入れる。20 名程度の受入れが可能」と表明された。対策会議では安房地域医療センターの本部長より、「停電が長期化するなかで、まだまだ救急搬送は増加するはず。その中で、館山病院が患者を受け入れてくれることは大変ありがたい。館山病院も被災された職員が多い中、感謝したい」との発言がなされた。

9月15日

本日はTMATから下記3名を搬送支援として派遣。

柳澤　修平　看護師　（四街道徳洲会病院所属）
屋宜　盛仁　事務　　（四街道徳洲会病院所属）
阪木　志帆　事務　　（TMAT事務局/一般社団法人徳洲会所属）　計3名

11：00頃　　3名は館山病院に向けて、四街道徳洲会病院より出発

13：00頃　　館山病院に到着。道中では折れた木々・看板・電柱や屋根にブルーシートを張った家が相当数見られ、コンビニエンスストアや飲食店は停電の為休業、中には窓ガラスがすべて割れて室内が壊滅的な状態の店舗が見受けられた。

13：15頃　館山病院看護部長と本日の予定について確認。リハビリ目的で安房地域医療センターに入院していた4名の患者を搬送予定であるとのこと。

13：50頃　TMAT3名と館山病院職員が安房地域医療センターに到着。救急外来入り口付近ではAMATが搬送調整を実施しており、密な連携のもと搬送を開始。

16：00頃　予定していた患者4名の搬送終了。安房地域医療センターのオーバーベッドは解消されたが、今後の予想される悪天候により救急搬送が増加することを想定し、受け入れ態勢を整えている。また、本日より徳洲会グループから支援に入った看護師7名が勤務を開始した。

9月16日

未明から続く大雨により、館山市には大雨・洪水・土砂災害の警報が出されている状況である。このような状況もあり、本日の安房地域医療センターからの搬送は無しとなった。同センターへの救急搬送も落ち着き始め、今後は必要に応じて館山病院の受け入れを行うこととなった。

16：00頃　安房地域医療センターにて行われた保健医療調整会議では、雨の影響で救急件数が増加していること、瓦の被害にあった家が大雨の影響で雨漏りし避難所への避難が昨日より増加していること、雨漏りを防ぐためにブルーシートを張る作業中に屋根から転落し救急搬送される事例が多発してことなどが報告された。また、この日まで保健医療調整本部を指揮していたDMATの同日撤収が決定。安房地域医センター内に置かれていた本部は、保健所に移管されることとな

った。引き続き、日赤とNGOが行政と一緒になり避難所、在宅避難者のアセスメントを実施していくとのこと（この日のアセスメントでは大きな医療ニーズは無しとの報告）。

館山病院の入院数は9月16日時点で192名。同院では多くの職員が被災し、現在でも停電が継続している方、夜は自衛隊のお風呂を利用されている方、屋根の補修等をする必要がある方が多くいる。そんな中、7名の看護師支援が入ったことで、職員を休ませたり、早く帰宅させることが出来るようになったとの報告があった。地域医療を担う病院のスタッフ支援も重要な災害時支援であるため、TMAT・徳洲会グループとして引き続き同院に館山病院に対して支援を
実施していく予定。

現在でも千葉県では約5万軒が停電している状況。明日以降も、館山病院と保健医療調整本部と連携しTMATとしての支援を継続していく。

9月17日
館山病院は安房地域医療センターより2名の患者を受入れ。

9月18日
館山病院は安房地域医療センターより2名の患者を受け入れ。安房地域医療センターからの受入れは合計で12名。館山病院の入院数は200名を超えた（台風被害前の平均入院数は約170名）

9月19日
16：30頃　館山病院にて同院田村事務長と事務局野口が今後の方針について協議。現在入院患者は192名だが、市内の停電は解消しつつあり退院調整が出来そうであることと、被災した職員も落ち着き始めてきているとのことから、現在支援に入っている看護師応援7名は9月21日（土）で終了して問題ないとのことであった。

17：30頃　定例開催されている安房地域保健医療調整会議（第7回）に館山病院田村事務長と事務局野口が出席。依然停電、断水をしている地区はあるものの、地域の救急件数は平常時に戻りつつあることと、支援ニーズは家屋に損傷が出た住民の生活支援にシフトしてきている旨の報告がなされた。また注意喚起として、屋根へのブルーシート張りを行おうとしたことで転落する事故が多発していることと、今後地域の感染症対策も重要になるとの指摘があった。館山病院からは徳洲会グループ、TMATの支援体制の方向性について説明し、徐々に通常体制に戻していくことを報告した。

9 月 19 日の館山病院との協議及び安房地域保健医療調整会議での方針を受けて、TMAT としての支援は一旦終了することとなった。引き続き館山病院とは情報を密に共有し、必要な支援があれば直ちに動ける体制をとることとした。

安房地域医療センターから患者搬送

AMAT から患者を引き継ぎ救急者搬送

安房地域保健医療調整会議

館山病院と TMAT が連携して患者搬送

事務局担当

野口　幸洋　（NPO 法人 TMAT　/　一般社団法人徳洲会東京本部）

阪木　志帆　（NPO 法人 TMAT　/　一般社団法人徳洲会東京本部）

文責　事務局 野口　幸洋